

製鉄記念室蘭病院

「がん看護外来」開設

不安や疑問に対応

製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)は11月から、がんと診断された患者が抱える日常生活への不安や疑問などに対応する「がん看護外来」を開設した。担当する青郷裕美緩和ケア認定看護師と、蒲原香奈子が化学療法看護認定看護師は、「患者さんの不安や疑問のお話を聞きながら、解決方法をともに考えていきたい」と話す。

診断技術や治療の進歩などによって、がんは「病気とともに生きる」慢性疾患のような位置付けとなりつつある現状だ。ただ、治療が長期間に及ぶことで、痛みや再発、日常生活などへの不安を抱える患者も多いという。がん看護外来は、患者や家族が抱く心配事や不安などに対して、専門の看護師が相談を受けて一緒に考える。がん治療を

行う全国の各病院で開設が進んでいる。緩和ケア外来や外来化学療法センター、がん相談支援センターなどがある同病院でも、「さらに、きめ細かなケアを」とする考えから開設した。

担当する青郷緩和ケア認定看護師は「精神的なフォローなど、つらい気持ちに対するカウンセリング的な役割も果たしたい」、蒲原がん化学療法看護認定看護師は「チーム医療の一つとして、患者さんに寄り添えれば」と話している。

対象は同院に通院中のがん患者。診療日は毎週月曜日と金曜日の午後。完全予約制。がん患者指導管理料2として、1割負担の人は200円、3割負担の人は600円かかる場合がある。予約、問い合わせは同病院、電話0143・44局4650番へ。(松岡秀宜)



がん看護外来を担当する(左から)青郷緩和ケア認定看護師、蒲原がん化学療法看護認定看護師